

## 多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.1 6 2】  
添付ファイル: 西成のドヤ街に今、若い女性たちが群がる理由 (プレジデントオンライン) - Yahoo!ニュース.pdf; ストロング系チューハイに薬物依存研究の第一人者がもの申す「違法薬物でもこんなに乱れることはありません」(BuzzFeed Japan) - Yahoo!ニュース.pdf; 認知症の数十万人「原因は処方薬」という驚愕 \_ 「薬害・廃人症候群」を知っていますか? \_ 東洋経済オンライン \_ 経済ニュースの新基準.pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 300 カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。  
本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1)新規の情報提供希望者が身近におられた場合、**BYA-HP の「お問合せ」** をご紹介ください。  
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2)有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3)情報の中で「**拡散すべき情報**」があれば、皆さんの判断で自由に「**転送・SNS 拡散**」してください。

### 【目次】

1. いやしくも社会に立って
2. 禁酒・禁煙の薦め
3. ストロング系チューハイに薬物依存研究の第一人者がもの申す (一括添付)
4. 認知症の数十万人「原因は処方薬」という驚愕 \_ 「薬害・廃人症候群」を知っていますか? (一括添付)【重要】
5. 米国のオピオイド危機 スイスでも警告
6. 西成のドヤ街に今、若い女性たちが群がる理由 (添付)

### 【記事】

1. いやしくも社会に立って  
苟も (いやしくも) 社会に立って  
何事かを成そうというほどの人である以上、  
一度や二度の失敗で  
悲観する様なことのあるはずがない。(大隈重信)

#### 2. 禁酒・禁煙の薦め

アルコールもタバコ (ニコチン等) も依存性薬物であることを忘れている人が多い。ベンゾジアゼピン依存症により、依存症の発症閾値が下がっている人は、他の依存性薬物による依存症にも罹患しやすいことが、医学的に明らかになっている。アルコールを飲めば「嫌なことを一時的に忘れてリフレッシュできる」というのは間違いである。それはベンゾジアゼピン服用時でも同じ理由で服用していたのではないか?

私個人で言えば、20 歳代に喫煙していたがその後に禁煙して、すでに 30 年以上が経過した。禁煙には数カ月を要したが、当時「禁煙して良かった」と感じた。そして、3 年ほど前からアレルギーによりアルコールも反応するようになり、完全「断酒」した。断酒して 1 年も経てば、酒のつまみのような食物は取らなくなり、食生活も変わり、体質や生活も改善し、アルコール代も 0 になった。つまり、依存性薬物を摂取しても良いことよりも悪いことの方が大きいのである。そこで、**ベンゾジアゼピン依存症を経験した皆さんにも「断酒・禁煙」をお勧めしたい。「依存性のあるアルコールやタバコは続けたいが、ベン**

ゾジアゼピンからは脱出したい」というのは、調子が良いすぎるのであり、無理がある。ベンゾジアゼピン副作用から、一日も早く抜け出たいのであれば、「断酒・禁煙」すべきです。

### 3. ストロング系チューハイに薬物依存研究の第一人者がもの申す（一括添付）

「違法薬物でもこんなに乱れることはありません」

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200121-00010000-bfj-soci>

高濃度アルコールの薬物依存性は、「えせ薬物依存研究者の松本俊彦医師」でさえ警鐘している。もっとも、松本俊彦自身もヘビースモーカーで「ニコチン依存症・アルコール依存症」であるが！！

### 4. 認知症の数十万人「原因は処方薬」という驚愕 \_ 「薬害・廃人症候群」を知っていますか？（一括添付）

東洋経済オンラインによる「ベンゾジアゼピン薬害」シリーズである。

以下引用

『最も疑わしいのがベンゾジアゼピン系薬剤

1960年代に開発されたベンゾジアゼピン系薬剤は、感情などに関わるベンゾジアゼピン受容体に作用して、睡眠薬・抗不安薬として使われている。日本で発売されているもののほとんどがベンゾジアゼピン系で、後発品を含めて約150種類ある。非ベンゾジアゼピン系の睡眠薬・抗不安薬もあるが、作用機序は同じなのでベンゾジアゼピン系と同じような副作用がある。ところが、1980年代に海外で高齢者への投与が問題となった。服用したベンゾジアゼピン系薬剤を分解する代謝が悪いうえ、排泄する能力も低下しているので体内に蓄積され、効きすぎるリスクがある。過鎮静の症状や認知機能、運動機能の低下などの副作用があることが明らかになり、海外では高齢者には「使用を避けるように」と指摘されている薬剤だ。』

『海外では、このベンゾジアゼピン系薬剤の危険性が早くから指摘されてきた。1982年にカナダの保健福祉省が「The Effects of Tranquillization :

Benzodiazepine Use in Canada」(精神安定薬の効果.カナダでのベンゾジアゼピン使用)と題する解説本を公表している。この中で「(ベンゾジアゼピン系薬剤の)ジアゼパムによる強いふらつきや過鎮静は若者と比べて高齢者に2倍以上発現する」などと注意を促したうえで「高齢者に使う場合は注意深いモニタリングがとくに重要だ」などと警鐘を鳴らしている。』

『日本でベンゾジアゼピン系薬剤の危険性を初めて公的に指摘したのは日本老年医学会だ。欧米と比べるとだいぶ遅いが、2005年に作成した「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン」の中で『とくに慎重な投与を要する薬物』のリストを公表、「中止・変更を考慮する」と注意喚起している。ベンゾジアゼピン系薬剤は、このリストには当然、含まれている。2015年の改訂版では、長時間作用が続くベンゾジアゼピン系は「使用するべきではない」と踏み込んだ表現で危険性を訴えている。』

『日本では医師免許さえあれば、専門外であっても処方できるのだが、専門外の分野の薬剤を処方するなら、それ相応の知識と情報を得ることが大切だ。専門外だと論文などに目を通す機会が減るなど情報量は格段に少なくなる。危険性も知らなければ、副作用にも気付かないという恐ろしい事態に陥っている可能性もある。』

さて、ベンゾジアゼピンが招いた「認知症の数十万人」の患者は、**ベンゾジアゼピン副作用を知らない医師が漫然・長期処方したことが原因だとすると、一体、何十万人が殺されているのか、数えることすらできない。**日本医療界の闇の世界である。誰が責任をとるのか？それとも、その原因者は「早く高齢者を殺したので高齢者の医療費削減」の功労者なのか？

### 5. 米国のオピオイド危機 スイスでも警告

[https://www.swissinfo.ch/jpn/business/%E4%B8%AD%E6%AF%92%E3%81%8C%E5%A4%A7%E3%81%8D%E3%81%AA%E5%95%8F%E9%A1%8C%E3%81%AB\\_%E7%B1%B3%E5%9B%BD%E3%81%AE%E3%82%AA%E3%83%94%E3%82%AA%E3%82%A4%E3%83%89%E5%8D%B1%E6%A9%9F-%](https://www.swissinfo.ch/jpn/business/%E4%B8%AD%E6%AF%92%E3%81%8C%E5%A4%A7%E3%81%8D%E3%81%AA%E5%95%8F%E9%A1%8C%E3%81%AB_%E7%B1%B3%E5%9B%BD%E3%81%AE%E3%82%AA%E3%83%94%E3%82%AA%E3%82%A4%E3%83%89%E5%8D%B1%E6%A9%9F-%)

米国で2017年の7万人以上がOD死したオピオイド事件は、当然、スイスでも警告されている。**処方薬依存が最大の問題**であることは疑いが無い。しかし、不思議なことに日本では「オピオイド薬害」は警告されていないのはなぜか？ その理由は、「日本では、医師の処方に従えばオピオイドは薬物依存にならない」(MHLW、NCNP 松本)ということらしい。

6. 西成のドヤ街に今、若い女性たちが群がる理由 (添付)

<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20200117-00032105-president-soci>

以下引用

『薬物乱用と聞くと、覚せい剤、コカイン、MDMA など違法薬物が真っ先に思い浮かぶが、病院で処方される合法的な薬にも依存性があるものが含まれていることを忘れてはならない。警察にはいち早く、根絶を前提とした摘発を求める。』



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史